

<全国納税貯蓄組合連合会優秀賞>

復興税について

福島大学附属中学校 三年 渡辺 陽菜

私が四歳の頃、東日本大震災が起きた。当時私は保育園にいて、地震で園の天井が落ちたため、安全な場所にみんなで移動して母の迎えを待った。余震が続く中、先生方が小さな私達を怖がらせないようにずっと本を読んでくれていた記憶がわずかにある。

あれから十年が経った。私の住む福島県は地震の被害に加え原子力災害、原発事故に伴う風評被害にも未だ苦しんでいる。

先日、震災後初めて南相馬市を訪れる機会があった。沿岸の津波による被害が県内でも甚大だった場所である。

車の中から辺りを見ていると

「この辺りまで津波が来たらしいよ。」

と母が言った。ふと電柱に津波到達地点と印があるのを見つけた。テレビで見たあの津波の映像が頭に浮かび急に怖くなって息を飲んだ。改めて外を眺めてみると、道路より少し高くなった場所に新しい住宅や建物がたくさん出来ていた。復興公営住宅が建ち並ぶ場所も見ることができた。復興はこの十年で大分進んでいるのだ。津波で家を失った被災者の方が一日も早く、落ち着いた日常を取り戻すためには、やはり税金を使った国の早急な対応が不可欠だ。

復興庁のホームページを見てみると、復興に関する予算や今まで行われてきた復興事業等を確認することができる。東日本大震災の後、復興特別所得税、復興特別法人税という税金が復興に関する財源確保のために創設され、所得税が増税された。その税金で被災地の復興、被災者の住宅再建や復興公営住宅建設等がいち早く進んだのだ。

震災後の増税は日本全国の働く人々の負担になったことだろう。しかし災害はいつでもどこで起こるかわからない。最近では自然災害も日本各地で増加している。税金が被

災者の救援や被災地のより速い復興につながるのならば増税も致し方ないと考えられる。

今夏、東京オリンピックが開催された。復興五輪と名付けられ、福島県でも競技が行われた。しかし、昨今の世界中での新型コロナウイルス感染症の流行により無観客となり、福島に観客を迎え入れることはできなかった。復興五輪は福島を始めとした復興を続ける東北の観光地を訪れてもらい、復興の現状と、その地で生産される食材や観光地の魅力を知ってもらう機会であったはずなのに、とても残念でならない。

ソフトボール競技で福島を訪れたアメリカの監督が、福島の桃がとても美味しかったと絶賛してくれていた報道を見た。また、オーストラリアの監督は福島の景観を美しいと言ってくれた。景観を守るのにも税金は使われている。わずかではあったが世界に知ってもらえたことを誇りに思い、これからの復興に自分も携わりたいと思う。